

### 令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	信州子ども食堂ネットワーク食糧庫の設置運営事業
事業主体 (連絡先)	特定非営利活動法人NPOホットライン信州 0263-75-8368
事業区分	(2)保健、医療、福祉の充実に関する事業
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	1,250,984 (うち支援金: 979,000円)

#### 事業内容

松本市本庄1丁目915に「信州子ども食堂松本」を設置(1階37㎡、2階37㎡、3階37㎡を占有)し、安心・安全な地域のコミュニティの居場所(信州子ども食堂・子どもカフェ)を県内外に発信し、多様性のある居場所(子ども食堂・子どもカフェ)の「学習支援」「食事提供」「悩み相談」等の機能拡充と更に地域に広げるため、70カ所が県内85ヶ所に増えました。

フードバンク活動として、寄贈の申し出に対しネットワークメンバーが食材・生活物資の回収を図り、食糧庫に保管と各食堂で食材を受け渡し、子ども食堂などで活用されました。

子どもを中心とした誰でも気軽に来れる「子どもの居場所」としての活用として、月2回以上、子どもの居場所としての「信州子ども食堂学び」の場を開催。また、学習支援・子どもと大人の交流の居場所となりました。



#### 事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

県で推進する子どもカフェ(子ども食堂)の実施団体の抱える課題の多くは、運営場所と食材の確保である。そこで従来の公民館は使用するのに手続きや使用制限もある。誰でも気軽に交流できる場所として「子どもの居場所」をつくり、更に、食材の確保と支援ができるよう、空き事務所を活用した食糧庫と学びが出来る総合福祉拠点としての効果が生まれた。

・寄贈の申し出をいただいた食材を無駄なく活用できた。  
・食材が一か所に保管されていることにより、子ども食堂や生活困窮家庭からの緊急のSOSに対応が可能となった。更に、これまでに、築いてきたネットワークの繋がりと新たにできたまちのプラットフォームでの繋がり多くの子どもの居場所の支援が可能になった。

#### 今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

子ども食堂は、多様性のある「食育」「学び」「学習」「世代交流」「相談」「ケア」等など課題解決の居場所でもあります。誰もが、出番(担い手になれる)の場所として、学校でない・家庭でない・第三の居場所としての「たまり場」です。多くの人々が集う場所として「地域のコミュニティの居場所」福祉の総合拠点「まちのプラットフォーム」にしていくことを目指します。

#### 【目標・ねらい】

- ①子ども食堂は、「食育」「学び」「学習」「世代交流」「相談」「ケア」等など多様性のある課題解決の居場所
- ②誰もが、居場所と出番(担い手になれる)たまり場であること
- ③「地域のコミュニティの居場所」福祉の総合拠点を目標

#### ※自己評価【A】

【理由】多様性のある居場所(子ども食堂・子どもカフェ)の「学習支援」「食事提供」「悩み相談」等の機能拡充を図り、更に地域に広げるため、県内70ヶ所が85ヶ所に増え、県外も2ヶ所に拡大するなど、今もなお、広がりがつあります。